

# 農業の将来を考える座談会

～座談会の進め方について～

## はじめに

現在、太田市の農業は高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農業が適切に利用されなくなることが懸念されております。これまで地域の皆さんのご努力で守り続けてきた農地を次の世代に着実に引き継いでいくために、

“目指すべき地域農業の将来の姿” を考える一員になっていただけませんか？

## 座談会で取り組むこと

座談会は2日間の日程で、大きく2つの取り組みを皆様と一緒にを行います。

1日目：「地域農業の将来を考えるワークショップ」

2日目：「農地の引き受け検討トライアル」

1日目の「地域農業の将来を考えるワークショップ」では、地域農業のこれからについて、2つのワークに沿って話し合いをして頂きます。「地域や地域農業がどのような状況にあって」・「目指すべき将来の姿を実現するために何が必要で、誰が、何をしなくてはならないか」という観点から、多様なご意見をお願いします。

ワーク①では、「地域や地域農業の現状や課題」、またそれを踏まえて「10年後、どのような農業を目指したいか」、お話しください。その際、「米価が安い」等の意見ではなく、地域としての課題であって、その課題に対して地域としての方針を示せるものであるとより実効性のある話し合いになります。



ワーク① 地域の現状と課題、在るべき姿を共有しよう	
地域や地域農業がどのような状況にある？	主要作物は何？ 農業者は高齢化している？ 新規参加者はいる？ 農地の貸借はスムーズに出来ている？ 地域のまとめ役となる農業者は誰？ 排水路は問題なく活用できている？ 耕作放棄地は多い？ 規模拡大はしやすい？ 農地の引き受け手はいる？
将来、どのような地域や地域農業の姿を目指したい？	
どのような状況であれば “農業がやりやすくなる？”	
どのような要因が “耕作できない状況を招いている？”	
.....	
.....	
.....	
.....	

## ワーク②

### ①を踏まえた具体的な行動案を考えよう

①の実現のために、“何が必要”で“誰が何をしなければならぬか”？

農地の集積（耕作面積の拡大）、集約化（利用権等の交換、分散は場の解消）  
誰に集積する？どこを集約していく？

農地中間管理事業（農地バンク）の活用  
基盤整備事業の取り組み  
どのような活用ができる？どのような支援がある？  
どこを整備する？どのような整備をする？

JAへの農作業委託  
どんな作業が委託できる？JA以外の事業者は？

多様な経営体の確保・育成  
地域の農地は地域の力で？新規就農者の受け入れは？法人の参加？

ワーク②では、ワーク①での話し合いを踏まえたなかで、目指すべき将来の姿を実現するための具体的な行動案について、お話しください。地域の方針としてどのような取り組みを行っていくべきなのか、多様な意見をお話しください。



2日目の「農地の引き受け検討トライアル」では、実際に地図を見ながら貸したい意向のある農地を引き受けることが出来るかどうかを検討して頂きます。引き受けることが出来る場合は、その農地をペンで囲んで、お名前を地図に記入して下さい。引き受けることが出来ない場合でも、その農地に関する情報（耕作放棄地になっている・水はけが悪い等）をご存知であれば、その内容を地図に書き込んで下さい。また、その農地を引き受けることが出来る方をご存じであれば、その方の情報も地図に書き込んで下さい。

薄青色で着色してある土地は農地以外の土地。  
 緑で着色してある農地は今後とも継続的な耕作が見込まれる農地。  
 白で着色してある農地はアンケート等で意向が確認出来ない農地。  
 赤で着色してある農地が貸したい意向のある農地。  
 ■模様の農地は遊休農地（耕作されておらず放置されている農地）です。  
 今回のトライアルでは赤色の農地が引き受けられるか検討して頂きます。



まずは地図に自分の耕作地があればペンで丸く囲みます。丸く囲んだ自分の耕作地の周辺に赤で着色してある土地はありませんか？赤色の農地は手放す意向のある農地ですので、もし引き受ける事が可能であればこれもペンで丸く囲んで自分の名前を地図に記入して下さい。



引き受けが出来ない場合でも、赤い農地に関する情報や地域農業に関する情報があれば地図に直接書き込んで下さい。耕作出来る方をご存じであれば、その方の情報も書き込んで下さい。



水はけが悪い

○●なら栽培できるかも

■△さんなら耕作できるかも

**ご注意！**

今回の取り組みによって農地の売買や賃貸借契約が締結される訳ではありません。あくまで「手放す意向のある農地を耕作する意思表示をおこなった。」とご理解下さい。